

# 日本人の



京都、こころここに

れもの

vol.07

## 熟成された文化

日本画家

上村 淳之さん



うへむら・あつし 1933年、京都市生まれ。上村松園、松堂、淳之と三代続く日本画家。京都市立美術大(現京都市立芸術大)卒。花鳥画で知られ、日本芸術院賞、京都府文化功労賞などを受賞。芸術院会員。京都市芸大名誉教授。奈良市在住。

た美の世界の具現化である。

草稿は  
写生に頼らず、  
自在に創りあげる



奈良時代大陸との交流が盛んになり、多くの文化が伝えられ、農耕民族の共通して持つ自然との共生感から生まれた文化は、スムーズに我が国にも定着していった。当時すでに欧州の文化が中国文化に影響していたのは、キトラ古墳の四神の表現にも見られる。渡来人の仕事は明らかにギリシャ神話にヒントを得たとと思われる表現である。

清代には、その本質を失い、生態画になつていった花鳥画の求めた象徴表現が、現実表現に陥つて救いがたい。

自然の偉大さに  
謙譲な姿勢を示す  
京の美意識

中国五代・宋に展開した花鳥画の世界も、我が国に伝えられ、正しく、普通の美を備えて発展してきたが、中国は明、



▲大木の下を、日傘を差して歩く。悠久の時空を超えて熟成された美とは

勢が求められ  
ていったと思  
われる。つつ  
まじやかさは  
自己表現に一  
種の制御を求  
めてきたので  
はなからう  
か。

絵画は積み  
重ねた自然観  
察の中で、胸  
中に熟成され

# 胸中に寝かせ実り待つ日本画 伝統は美しく守られ発展した

伝統的であることは、習習との混同が生み出した錯覚であろう。芸術は強烈な自己主張の上に接する人に刺戟を与え、覚醒力となって活力を促す事になるのであるが、覚醒された世界は人間の死に様を示唆するものでなければならぬ。

もう一度  
かみしめたい  
「不易流行」

深く、広い試行錯誤の中で、洗練されてゆく日本文化はそうして生まれ、従って伝統は美しく力強く守られ、発展してきた。

一時の快楽を求め、苦の逃げ道となつては実りのないものとなるであろう。不易流行なる言葉をもう一度かみしめ、決してスピーディには発展し得ない文化をこの地で、じっくり育てたいものである。

名品が時空を超えて存在する理由は、目新しさではなく、余人の識り得なかつた境地を表してのものであり、熟成されたものは普遍の美を備えているはずである。

敗戦という日本人が初めて味わった劣等感、日本人のプライドの喪失を招いてきたが、文化に敗戦はなく、独自の確立がステイタスであろう。ただし、文化は異文化の刺戟なくしては健全な育成は望めない。東京に遷都され、京都がさらなる活性、発展に力を注いだあのプライドをもう一度取り戻したいと思う。



(過去に掲載した「日本人の忘れもの」は、京都新聞ホームページ [http://k.yoto-np.jp/kp/kyo\\_np/info/nwc/](http://k.yoto-np.jp/kp/kyo_np/info/nwc/) (7) 覧いただけます)

## 日本の暦

蛸鳴く

(8月13日・17日)

夏の早朝や夕方ごろ、カナカナカナカナと涼やかな声(羽音)で鳴く蛸が。ジージーと暑さをかき立てるような油蛸や、耳にうるさいミンミンと違い、どこかもの寂しい鳴き声がいそが秋の訪れを感じさせてくれます。「秋告げ蛸」の異名がありますが、実際には蛸は夏の初めから鳴いていて、8月中旬から鳴き出すのはツクツクボウシなのです。しかし蛸の鳴く、早朝や夕暮れどきの涼しさともあいまって、先人たちは蛸の声に秋を感じたのに違いありません。



人形作家  
森小夜子さん

### ■ 始末

「始末のできんことはするな」と過日夫に怒鳴られ、ムツとなって口答えをしました。

私は自分のことを「始末な方だ」と思っていたからです。

姑からよくあの嫁、ケチですわ。始末な嫁や」と言われていました。夫の捨てせりふは、「消せん電気はつけるな」でした。

少し落ち着いてから、納得です。ちょうど今、人形教室展の追い込み中で、テーマが「江戸時代に学ぶエコ生活」(9月16・19日、京都文化博物館で開催予定)だからです。

江戸時代の人は、始末の名人でした。抜け毛さえ買ひ歩き、カツラ屋などに卸す「おぢやない」という職種までありました。

まさに「モノの価値や品位を活かしきつとる」ココロ、「もったいない」の世界でした。

いつころから、始末がケチと同義になり「もったいない」と言わなくなったのでしょうか。

改めて私は、文字通りの「始末のよい人になりたい」と願ったのですが、いつまで続くかな。

思えば、このたびの原発問題は始末のまさきの典型ですね。

(次回8月21日のメッセージは、イラストレーター・絵本作家の永田萌さんです)

## 普陀落浄土

四神相応の東・青龍の地に宝龜9年(778)延鎮上人が開創。その延鎮に深く帰依し清水寺の礎をつくったのが征夷大将軍として桓武天皇を助けた坂上田村麻呂公です。

平安遷都後は朝廷の尊崇を受け、国家鎮護の寺院として「源氏物語」や「枕草子」などの古典文学にも登場します。一本尊は十一面千手観音菩薩。その千の手で無限の靈験を与え、衆生を救うとして人々から「きよみずさん」と親しまれてきました。

世界遺産となった16の堂塔伽藍が音羽山の山腹に立ち並ぶ姿は、あたたかも観音様がお住まいになる聖なる地。清水寺は観音菩薩がその千の手をさしのべて一人ひとりに微笑みかけているのです。

## 音羽山 清水寺